

中部横断自動車道を見据えた 北杜市まちづくりビジョン（案）



平成26年3月

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

目 次

1. 北杜市まちづくりビジョンとは	1
2. 北杜市まちづくりビジョン（素案）の検討方針	5
2-1 検討に先立ち行った意見の把握	6
3. 北杜市まちづくりビジョン（素案）	
3-1 まちづくりビジョンにおける理念	10
3-2 まちづくりビジョンの基本方針・視点	11
3-3 まちづくりビジョンの分野別基本方針・視点	
3-3-1 環境・景観	12
3-3-2 くらし	14
3-3-3 地域活性化	16
3-3-4 観光	18
3-4 まちづくりビジョン達成に向けた進め方	20
4. まちづくりビジョンを達成するための道路プランにむけて	21

パブリックコメントによる修正箇所： 番号

行政区長から寄せられた意見による修正箇所： 番号

注：番号は、「参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧」、「参考資料2 行政区長から寄せられた意見一覧」の番号に対応しています。

1. 北杜市まちづくりビジョンとは

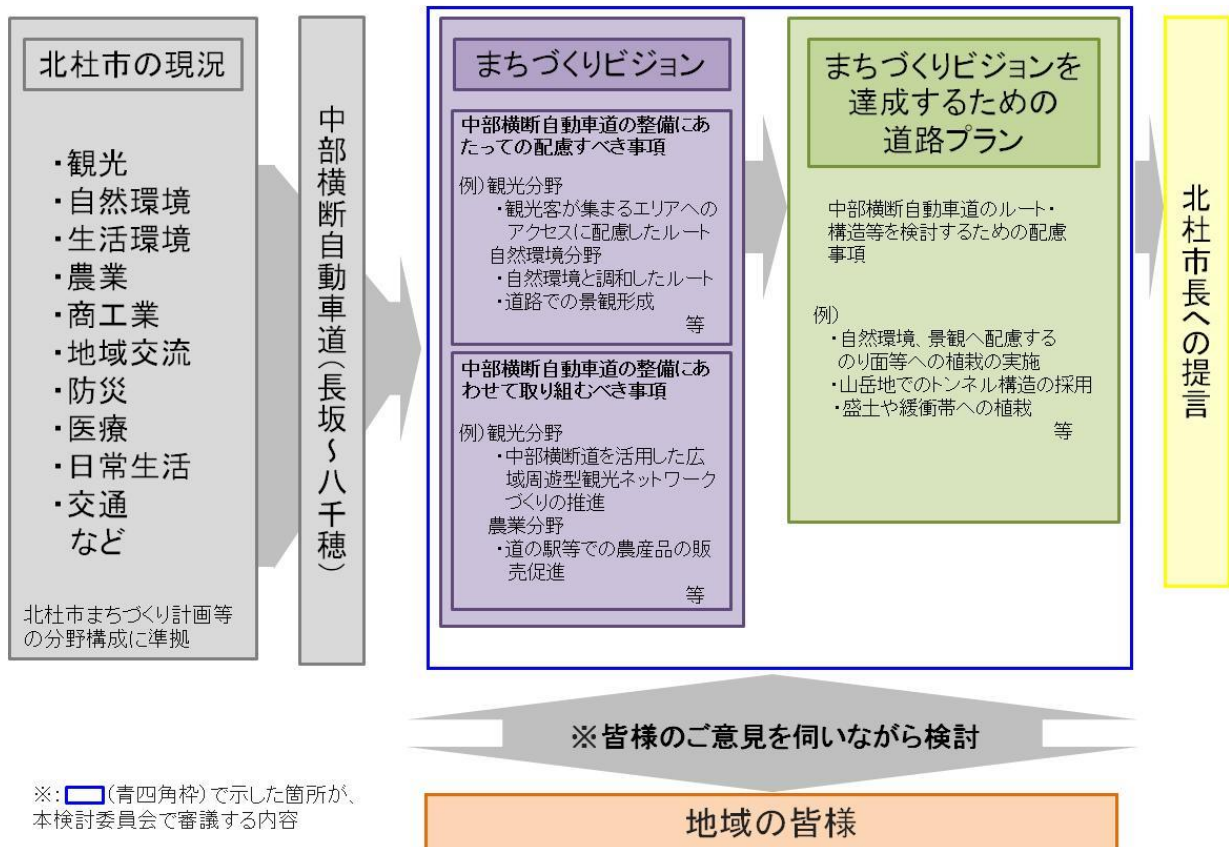
北杜市まちづくりビジョン（以下、「まちづくりビジョン」）は、既定計画である「北杜市まちづくり計画」を踏まえ、中部横断自動車道の整備を見据え、沿線地域の将来像を明らかにし、北杜市の恵まれた地域特性を踏まえながら、地域の活性化に結びつける取組や方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するための指針となるものです。

■まちづくりビジョンの検討の流れと策定経緯

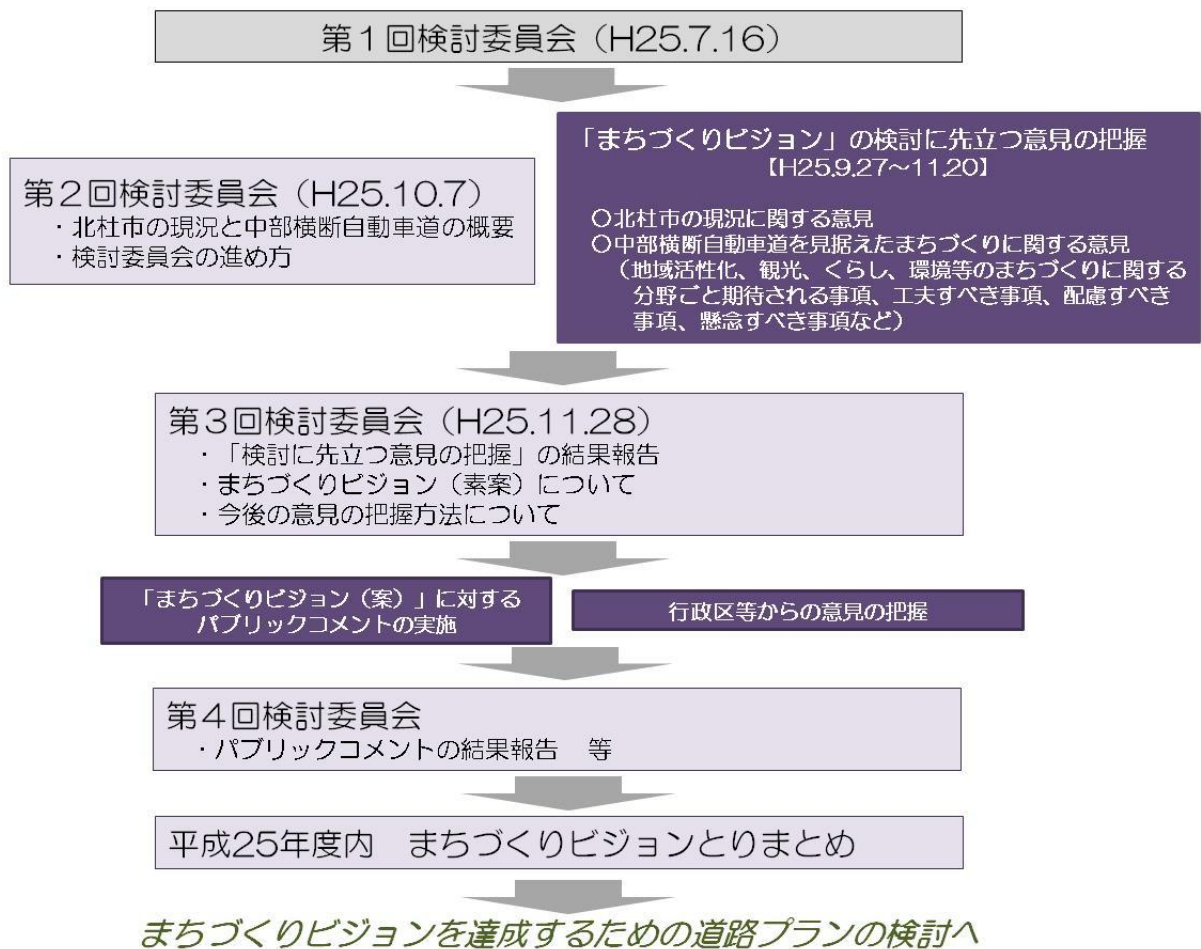
まちづくりビジョンの検討は、北杜市中部横断自動車道活用検討委員会（以下、「検討委員会」）での審議を経てとりまとめられるもので、検討委員会は学識経験者、地域の代表者や市域の主要産業である観光、商工業及び農業などの分野から委員を構成しています。

検討委員会では、様々な立場の地域の皆様から、多様な意見を丁寧に把握するとともに、検討過程の中立性、公平性を十分確保して審議を行っています。

まちづくりビジョンの策定の流れは以下のとおりです。



※: (青四角枠) で示した箇所が、本検討委員会で審議する内容



■検討に先立つ意見の把握においてご意見を頂いた団体等

- ・ 中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会
- ・ 山梨県南アルプス観光協会
- ・ 公益財団法人キープ協会
- ・ 南アルプス市商工会
- ・ 一般社団法人北杜市観光協会
- ・ 韮崎市商工会
- ・ 北杜市商工会
- ・ 山梨県農業会議
- ・ 八ヶ岳青年会議所シニアクラブ
- ・ 山梨県中小企業団体中央会
- ・ 検討委員会委員
- ・ 一般社団法人山梨県バス協会
- ・ 山梨県女性団体協議会
- ・ 社団法人山梨県建設業協会

※意見の把握にあたっては、まちづくりビジョン（素案）を作成するために任意で行ったものであり、様々な分野から多様な意見を伺うという観点から、団体（又は地域）の統一的なご意見でなくても良いという条件から伺ったことから、頂いたご意見は団体（又は地域）を集約した意見としては扱っていません。

■ 既存・上位計画（まちづくり計画）の概要

まちづくりビジョンの策定にあたり**主な**既定計画となる、平成 22 年 12 月に策定された北杜市まちづくり計画（以下、「まちづくり計画」）の概要は以下のとおりです。

まちづくりの全体コンセプト

北杜市らしさを守り、育て、未来につなげる、美しい環境のまち

【目標とするまちづくりの姿】 ～優れた環境の保全と集約型のまちづくり～

◎複数拠点の配置や拠点間での役割補完など、連携・交流するネットワーク型を併せ持つ複合連携型の骨格構造を目標とする。

【目標とする骨格構造】

◎拠点形成

- 地域拠点・・・総合支所周辺 8 地区及び清里駅周辺地区の 9 つの地区を地域拠点に指定
- 観光・交流・ふれあい拠点・・・既存集落地区を主として、周辺自然環境への影響を考慮しつつ、自然環境を活用した拠点を形成
- 産業拠点・・・既存の工業立地地区周辺への産業機能の集約を目指すとともに、環境負荷の小さい先端産業等の誘致を推進。

◎骨格軸の形成

◆都市連携軸

鉄道網及び中央自動車道、国道 20 号、国道 141 号を本市と他都市間を連携する都市連携軸と位置づけ、機能の一層の強化を図る。

◆市民生活交流軸、広域観光交流軸

環状及び各拠点を結ぶ軸を市民生活交流軸として設定し、地域間の連携強化と安全性・快適性の向上を目指し、整備を推進。

◆広域観光交流軸

八ヶ岳高原ラインを、八ヶ岳南西麓を回遊する広域観光交流軸として、近隣自治体をも含む広域的な交流拠点の連絡・連携を支える。

◎土地利用の方向

◆森林保全ゾーン（県有林を主体とする山岳山林地域）

環境保全の役割を持つ森林機能の保全、水源涵養、木材生産、動植物生息域の保全を基本とし、自然体験型リクリエーションの利用を実施

◆里山保全ゾーン（背後に森林保全ゾーンを抱える民有林地域等）

自然とのふれあい、別荘、リトリートの集落等の適性利用を図りつつ、豊かな自然環境の保全・回復と眺望等の保全を推進

◆田園集落ゾーン（生活圏の大部分を占める既存集落等の地域）

美しい農村風景と豊かな田園環境を保全しつつ、地域農業の振興、集落コミュニティの維持を図り、安定した農村環境の維持・継承を進める。

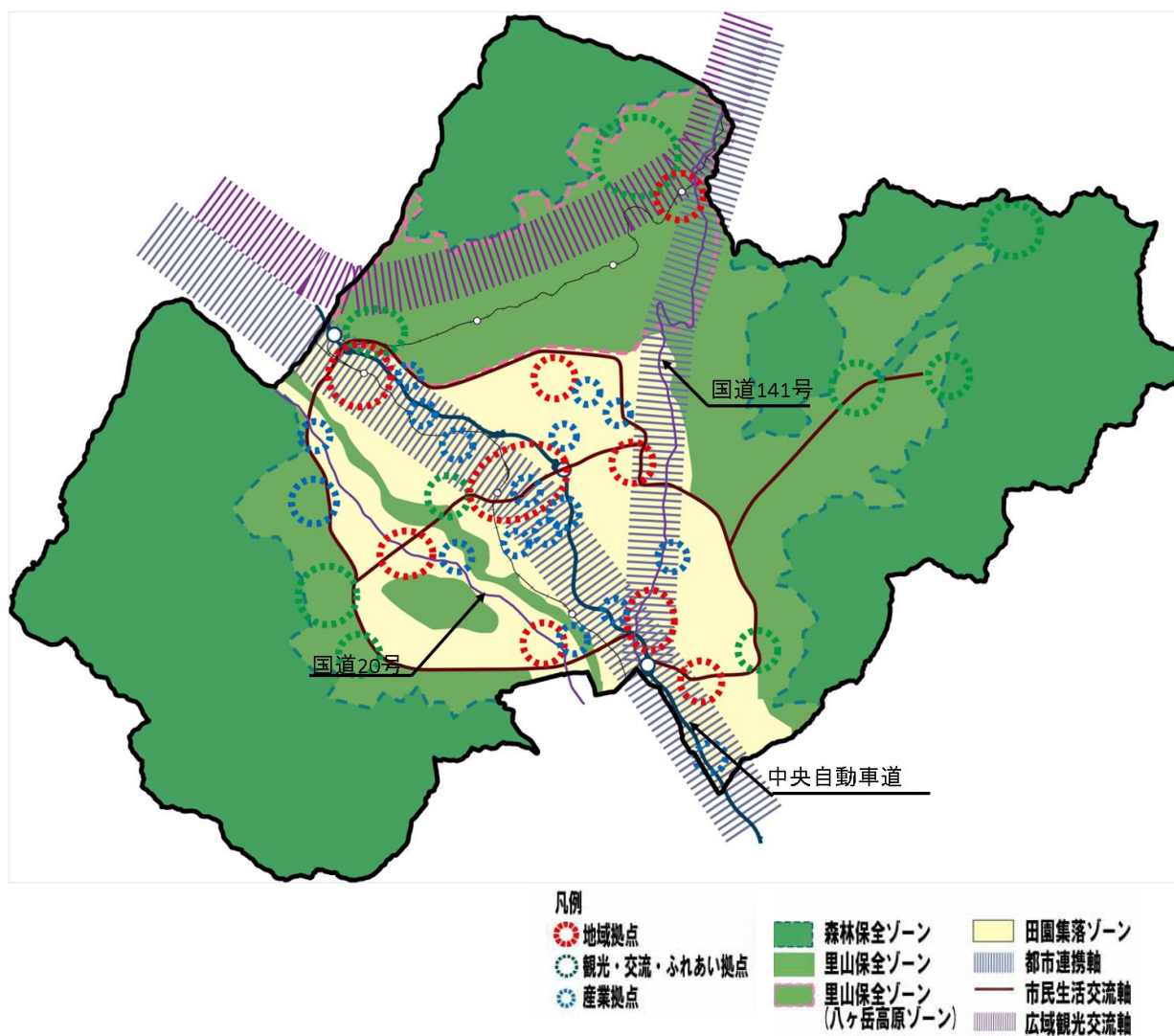


図1 まちづくり計画における都市構造のイメージ

北杜市まちづくりビジョンは、既定計画である「北杜市まちづくり計画」と整合を図り、中部横断自動車道を見据えたまちづくりにあたっては、適切な土地利用が図られるよう取り組む必要がある。

2. 北杜市まちづくりビジョン（素案）の検討方針

まちづくりビジョンは、北杜市の既定計画を踏まえつつ、中部横断自動車道の整備を見据え、地域の現況や特色を整理した上で、地域活性化などに資するまちづくりのあり方や地域の取組の指針となるものです。

まちづくりビジョンは、地域の皆様をはじめとする関係する方々の共通認識となる『基本理念』を掲げ、その基本理念を達成するためにテーマ（分野）ごとに『基本方針』を設定し、その基本方針を基に、具体的な検討をするための方向性を示した『視点』で構成しています。

まちづくりビジョン（素案）の検討に際し、検討委員会では、地域において様々なご意見をお持ちの団体の方などを対象に、まちづくりビジョンの検討に先立ち意見の把握を行いました。『基本理念』と『基本方針』は、頂いた様々なご意見を踏まえて設定したものです。

また、『視点』は、今後、具体的なプランの検討を進めていくことを見据えて、地域の皆様からのご意見を踏まえ設定したものです。

2-1 検討に先立つ意見の把握

「検討に先立つ意見の把握」においては、様々な立場から多様な意見を把握しました。寄せられた意見の中から、中部横断道を見据えたまちづくりに関し、より具体的な意見を分野ごとに整理し、下表に記載しました。

(1) 検討に先立つ意見の把握で頂いた主なご意見（環境・景観分野）

分野	主な意見
自然環境	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳周辺の動植物の保全が最重要課題 <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路によって(生活の場と自然の場を)分断することができないか ・環境・景観にやさしく利便性のある道路を目指してほしい ・環境を大切にしながら、という視点が大事。ただし、生活面も重要であり、環境保護だけではダメだろうと思う <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高根と旭山・堤山。これを避ける方法はある ・南麓を通さないでほしい。 ・豊富な緑をなくすことのないように、車の通行等を配慮しながら決定するようであってほしい ・遺跡の問題についても、万が一埋蔵文化財がでてしまうと 10 年ぐらいは止まってしまう。これも経済的な損失が大きいだらう ・様々な動植物が生息している ・動物・生態系への影響が生じる可能性があるかもしれないが、配慮しながら進めれば良いと思う ・滑らかな豊富な水資源、特に名水百選に選定された湧水等の地下資源は、今貴重である
景観	<p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眺望が最低限確保できるような構造が良い ・周辺に調和したような構造が良い ・SAPA 等を含む道路からの景観 ・環境・景観にやさしく利便性のある道路を目指してほしい ・景観に対しては、今の技術を使えばそれほど心配する必要はない ・整備に合わせて地域の魅力づくりをしていくことも重要 ・八ヶ岳の魅力や歴史などを発信する良い機会と考える <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高根は八ヶ岳・金峰山・富士山・南アルプスが一望できる場所 ・山岳景観として山々が全部見えるのは高根・清里 ・富士山を視対象とする景観という意味では、日本でも有数で、他に無い場所だと考えられる。つまり、保全の必要性が高い ・京都の人は高い山(山岳景観)を求めてやってくる。 ・世界遺産を目指す山岳景観に道路ができては世界一とは言えない ・清里に住んでいる方は特に景観を重要視 ・土手、防音壁などで八ヶ岳の景観をこわさないように配慮
生活環境	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圃場の堆肥を造るためにあった森林を伐採して別荘が建てられている <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路によって(生活の場と自然の場を)分断することができないか ・高速整備で一般道よりも排ガスなどは少なくて済むのではないか <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・騒音が心配 ・光害が心配 ・新潟の人は太陽を求めてやってくる。 ・空気も良いし、水も良い

(2) 検討に先立つ意見の把握で頂いた主なご意見（くらし分野）

分野	主な意見
市内の公共交通や道路網	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民バスの充実、路線。時刻改正 ・現状、曲がり角が多い。場所によっては大型が対向できない ・(新潟方面等の経路選択において)選択肢が2つあることが重要 ・国道141号の活用・改修についても検討 <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次交通としてリニアに近い道路網が完成すると北杜市も近くなる ・時刻改正 ・高速道路ができると外に出て色々なものを見れば、若い人はどこでも行けるし、いろんなことを見聞きできる ・北関東方面に中部横断で行けるようになる。都内を抜けなくて良いので時間短縮にもなるだろう ・長野側にとっても、活動範囲・行動範囲が広がるといったメリット <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清里駅に近いところへのインターの設置 ・代替地を取得したいという希望が出てきた場合には対応 ・農地の基盤整備をしたところではできるだけ避けていただきたい ・地元では、(道路事業に)土地を提供したいという人が多いのではないかと思います。協力したいという方が多いだろう ・八ヶ岳PAから長坂ICの間は3kmしかないがその間にもう一つICを作るのは常識的に考えて危険 ・暫定2車線整備はやめてほしい。使い勝手を考えれば4車線で整備してもらいたい。 ・冬の装備が無い車が多く、IC降りた後のアクセスで上がれない車がでる可能性があるの、そういった対策も考えてほしい
地域の防災機能	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災面や救急医療面では、ドクターヘリの台数も限られている <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から、地震があっても揺れにくい場所 ・災害が少ないというのも1つの売り ・高速道路のネットワークも役に立つし、自衛隊の災害時の移動ルート等にも活用できる ・(サービスエリアは)非常時には避難場所として使用できるとともに、災害救助用のヘリポートを併設する <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災面でも80km/hとかで走れる道路は必要
地域の医療体制	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療で考えるならば、北杜市は韮崎方面よりも佐久方面に行った方が早い <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食料の調達という意味では、相互に助け合えることは良いこと。高速を使って、救急・災害への対策がとれるようになるだろう。

(3) 検討に先立つ意見の把握で頂いた主なご意見（地域活性化分野）

分野	主な意見
農業振興	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別荘地ではなく営農地であることを理解して欲しい ・道の問題は地域の活性化と結びついている ・農業振興の施策をどうするか ・道路整備後に農業従事者がいなくなるということにならないよう <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SAには一部でいいから地元の農作物などが販売できると良い ・生の野菜を豊富に店頭に並べてほしい ・多くの人たちが喜ぶ八ヶ岳の漬物が出るとよい ・名水百選の湧水として販売したならどうか ・農業の六次産業化は、自然を大事にしながら活用できる取り組み ・地場産業とタイアップするのも面白い。 ・穂坂地区ではぶどう・りんごなどの果樹の品質が高い。農商で連携していかなくてはいけない ・新しい産業の育成として、医療やバイオの研究開発などが考えられる ・ワインも温暖化でこれからは富士北麓か八ヶ岳かとも言われている。 <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営農支援や里山保全などの面もふくめて、地域の声をもっと真摯に受け止めて、将来に繋がる地域振興を図るべき ・農地の基盤整備をしたところはできるなら避けていただきたい ・高速道路なので、やはりICがほしい。できればスマートIC
商工業の活性化	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清里駅前周辺地区は、かつて賑やかだった時代から比べると寂れてしまった ・地域の原動力になる若い人の人口が少ない ・地域活性化を呼びかけても答えてくれる組織が無い <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速を降りなくても良い道の駅やSA、PA物販施設があると商業の活性化にもつながる ・サービスエリアは、一般道からも中部横断道からも利用できるサービスエリアとする。 ・景観も含めた「介護」もこれからの1つの産業 ・南アルプス、北杜市は水が大きなビジネスになると考える ・新潟まで開通すると、流通や倉庫業などが発展する可能性は高く、物流拠点ができる可能性が高い ・医療等の産業はこれから期待でき、県内の中小企業への波及効果が期待 ・当方・丘の公園・萌木の村の3組織が中心となるべき ・地域を活性化(地域力を向上)するためには中部横断道全線の連携(行政間、地域間の連携)と地道な努力(人づくり等)が必要 <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地が来るとしても環境に優しい企業に来てもらいたい ・活性化を考えるならば、ある程度アクセスが容易なところが望ましい

(4) 検討に先立つ意見の把握で頂いた主なご意見（観光分野）

分野	主な意見
観光振興	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く滞在してもやること・行く場所があまり無い ・体験型農業・観光に目を向けていかないと廃れる一方 ・観光バスは交差点を狭くしているので回れない ・北杜市は広くて観光地が分散してしまっている ・関西方面からの観光に弱い <p>【提案事項、取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳景観を売り込んでいるので、それを見られるような場所がほしい ・桃の花の時期やダイヤモンド富士などの写真を撮りに当地に来る人も多い ・風景は地元には当たり前だが、それを売り物にしていくしかない ・全国で唯一の**といったものがあると呼び込みになる ・走りながらでは危ないが、SAなどを強化すればよい。景色が良いので展望台やハイウェイオアシスなどを作ってはどうか。 ・農業体験もできて、観光もできて、という切り口で考えれば、他の観光地とは違う場所となり得る ・公共の温泉施設などを利用して人々を集めることを考えては ・隠れた湧水を確認することが観光地としてもよい ・(南アルプス市などの)果物狩りと、峡北の他の観光資源を連携できればよい ・地域を代表するところにライブカメラを設置し、近隣の観光地に誘導するなど滞留時間を長くするなどの仕組みがほしい。 ・宿泊を兼ねた能の体験の提供がよいと考える ・ハケ岳の長期滞在客が当地に桃狩りに来てくれる。中部横断道ができれば来るのに便利 ・軽井沢と清里からのお客に来てほしい ・軽井沢のアウトレットやゴルフに行くのが楽になる ・往来が容易になることにより観光需要が生まれればよい ・果物を食べに来てほしい ・冬場は静岡や山梨からスキー客の草津方面への利用が増えると想定 ・ハケ岳高原リゾートバス、ピクニックバス、みずがき田園バスの見直し、定期観光バス路線新設(路線・時刻改正) ・観光バスも韮崎・北杜から佐久へ抜けるといったコースの組み方も可能。東京、山梨、長野の周遊コースもできる。また、風景を活かした観光面のアイデアもあるだろう。 ・地域を代表するところにライブカメラを設置し、近隣の観光地に誘導するなど滞留時間を長くするなどの仕組みがほしい。 ・近隣と連携するためのツールとして、絵とポスターだけでなく、情報発信機器(SAや道の駅に設置するライブカメラ)が必要である。 ・サービスエリア内に市の観光案内もできる総合案内所を設ける ・観光ルート・コース内の所要時間、見頃、パンフの配布、市からのお知らせ、市内のイベント案内、緊急時の対応、相談窓口とする。 <p>【配慮すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクセスについては、清里ICが良い。観光客を考えるなら、清里駅近いほうが良い。 ・逆に清里にはICの方が良い。

3. 北杜市まちづくりビジョン（素案）

3-1 まちづくりビジョンにおける理念

中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくりに関する意見を踏まえ、まちづくりビジョンにおける『理念』を次のように考えました。

<基本理念>

**地域を『つなぐ』、地域を『支える』、地域に『なじむ』、
地域との『協働』による北杜のまちづくり・みちづくり**

北杜市まちづくりビジョンにおいては、中部横断自動車道の整備を見据えたまちづくり・みちづくりを実践していくうえで、北杜市は雄大かつ貴重な自然環境や景観を有していること、山梨県内でも有数の観光名所であること、農業が盛んな地域であることなど、この地域が持つ個性や強みを活かし、将来に向けてどのように取り組んでいくのか、行政や地域の皆様をはじめとする関係者が共通の認識として掲げられるものを『理念』としました。

- 一. 人と人、地域と地域を『つなぐ』、まちづくり・みちづくり
- 一. 観光や農業と地域の発展やくらしの安全・安心を『支える』、まちづくり・みちづくり
- 一. 雄大な自然や景観と調和した、地域に『なじむ』まちづくり・みちづくり
- 一. 行政と地域住民との『協働』による、まちづくり・みちづくり

3-2 まちづくりビジョンの基本方針・視点

まちづくりビジョンの理念の実現にむけて、環境・景観、くらし、地域活性化、観光の4つの分野から、以下のような基本方針と視点を設定しました。

基本方針① 環境・景観：多様な自然・環境・景観とともに

分野別の視点

豊かな自然環境^{※1}との調和と共生

NO.2

優れた出岳景観と農村景観の保全

NO.108

良好な生活環境^{※2}への配慮

貴重な動植物との共存

基本方針② くらし：安全・安心で快適なくらしのために

分野別の視点

安全・安心の確保に向けて

くらしやすさの向上

基本方針③ 地域活性化：魅力あふれる元気なまちを目指して

分野別の視点

六次産業・農業と観光の融合による地域活性化

商工業の活性化

基本方針④ 観光：にぎわい創出玄関口づくり

分野別の視点

観光拠点へのアクセス

豊かな景色を満喫できる場の工夫

周遊・滞在（型）観光を促進する情報発信の工夫

※1：自然環境とは、地下水・森林・田園・河川などを意味しています。

※2：生活環境とは、騒音・振動・光・大気などを意味しています。

3-3 まちづくりビジョンの分野別基本方針・視点

3-3-1 環境・景観

基本方針：多様な自然・環境・景観とともに

北杜市は、市の約8割が森林となっているなど緑豊かな地域で、多種多様な動植物が生息・生育しているとともに、八ヶ岳南麓高原湧水群による日本名水百選に選定されるなど、貴重な湧水も数多く存在しています。また、八ヶ岳や南アルプスなどの雄大な景観も魅力の一つですが、農用地や森林が開発により失われつつあるなど、豊かな自然環境と地域の発展や生活環境との調和を図る必要があると捉えています。

NO.12、NO.100、NO.105

中部横断自動車道を契機としたまちづくり・みちづくりにあたっては、地域の貴重な動植物をはじめとする自然環境や、澄んだ空気、豊富な地下水・湧水を保全するとともに、山岳景観などの観光資源である眺望の保全、地域の生活環境への配慮など、将来にわたって、自然から得られる恩恵を享受できるよう調和を図るとともに生活環境への配慮を行っていくことが必要と考えます。

このため、環境に関しては、以下のような視点での取組が必要と考えます。

NO.2

視点①：豊かな自然環境との調和と共生

貴重な動植物を育む森林や八ヶ岳をはじめとする旭山や堤山などの山々、澄んだ空気や豊富で清涼な地下水・湧水、埋蔵文化財など、観光資源にもなっている豊かな自然環境を次世代に継承していくため、湧水を保全する方策など、自然環境と調和し共存・共生できるまちづくり・みちづくりの取組が必要と考えます。

NO.12
NO.100
NO.105

NO.2



視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全

NO.108

北杜 24 景に代表される優れた山岳景観や、それらを背景とした農村景観や高原の眼下に広がる溪谷などの景観資源を守り、活用していくため、色彩の工夫、山岳景観や農村景観などに多種多様な景観になじむつくりにするなど、周辺の風景と調和したまちづくり・みちづくりの取組が必要と考えます。



視点③：良好な生活環境への配慮

良好な生活環境に配慮したまちづくりの実現に向けて、住みよいまちを維持できるよう、騒音、振動や光害などを最小限にとどめるなど生活環境の保全に向けた積極的な取組が必要と考えます。



視点④：貴重な動植物との共存

北杜市にはヤマネやオオムラサキに代表される貴重な動植物が多く生息していることから、動物の移動経路や食住環境の確保、貴重植物の移植による保全など生きものに優しく、共存できる工夫や動植物への影響を最小限に抑える方策など、貴重な動植物に配慮したまちづくり・みちづくりの取組が必要と考えます。

NO.108

また、貴重な動植物との共存への取組を通し、環境教育の広がりなども期待されます。



3-3-2 くらし

基本方針：安全・安心で快適なくらしのために

北杜市は、少子高齢化の進行などによる患者の増加からくる地域医療機能の低下や、交通安全の観点から危険な生活道路の散在、市民の足となる公共交通網が不足している状況と捉えています。

中部横断自動車道を契機としたまちづくり・みちづくりにあたっては、高度医療施設へのアクセス向上、ドクターヘリとの連携による救急搬送の速達性・確実性の向上、緊急車両や大型車も円滑に通行できる生活道路の整備、災害時における施設の避難路、救援ルート の確保や市民の一時的な避難場所などの確保とともに、市民が快適にくらすための公共交通網の整備も必要と考えます。

このため、くらしに関しては、以下のような視点での取組が必要と考えます。

視点①：安全・安心の確保に向けて

救急医療活動や災害時には、中部横断自動車道を避難路・救援ルート・避難場所・休憩施設の災害救助用ヘリポートとして活用することなど、高速道路そのものの安全性の確保はもとより、インターチェンジの配置の工夫やアクセス道路の整備などに取り組む必要があると考えます。

また、安全・安心の確保のための、適切な維持・管理にも取り組む必要があると考えます。

NO.1、NO.6、NO.21、NO.83



視点②：くらしやすさの向上

子どもから高齢者まで暮らしやすいまちとするため、市内を走る国道141号などの道路網の整備や効率的かつ効果的な公共交通網の充実を図るなど、交通の利便性向上に取り組む必要があると考えます。

またこれらにあたっては、地域住民の通勤・通学圏や行動範囲を拡大させるため、インターチェンジの配置の工夫や公共交通拠点との連携にも取り組む必要があると考えます。

NO.5

また、利便性向上とともに、生活道路などにおける歩行者の安全確保など、くらしやすさの向上のための安全性向上に取り組む必要があると考えます。

NO.18、NO.33

NO.42



3-3-3 地域活性化

基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して

北杜市は、これまで農業や観光を主体とする産業を主体として発展してきましたが、近年では高齢化による農業の担い手不足や、主要な観光拠点の賑わいの陰りがあると捉えています。

中部横断自動車道を契機としたまちづくり・みちづくりにより、新たに人・モノの往来が活発化し、多様な交流・連携が生み出され、全国に誇れる水や空気といった価値ある地域資源の魅力の再発見や他地域の特産品の呼び込みなどが期待されます。こうしたことから、市の主要産業である農業や商工業の活性化を市域全体に広げ、それらを活かした体験型農業をはじめとする農業と観光の融合や文化財等を活用した文化・芸術活動の促進など、魅力ある元気なまちづくりの取組が必要と考えています。

一方で、北杜市の持つ魅力やイメージに合う企業の誘致や、次代を担う人材の育成など、八ヶ岳南麓の魅力に後押しされた豊かな経済活動の促進によるまちづくりの理念とも整合の取れた、将来に繋がる地域振興を図っていくべきであるとと考えています。

このため、地域活性化に関しては、以下のような視点での取組が必要と考えます。

NO.11

NO.15
NO.91

NO.31

NO.21
NO.25
NO.28
NO.66

視点①：六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化

北杜市の基幹産業である農業については、優良農地から生み出される特産品である米や高原野菜等のブランド化や新たな特産品の開発、名水百選の湧水の販路拡大など、六次産業^{*}化を進めていくことと、中部横断自動車道による首都圏や中京圏からのアクセス向上を見据え、現在進められている体験型農業の強化、首都圏・中京圏からの集客等、農業と観光の融合による地域間交流の拡大などの取組を促進していく必要があると考えます。

また、これらを進めていくための担い手の発掘・育成にも力を注いでいく必要があると考えます。

^{*}六次産業とは、第一次産業である農林水産業が、農林水産物の生産だけにとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第二次産業や第三次産業にまで踏み込むこと。

NO.15



視点②：商工業の活性化

NO.4、NO.36

交通の利便性向上を活かし、北杜市の持つ魅力やイメージに適した環境に優し

い、若者の雇用につながる企業誘致によるまちづくりを促進していくことと、

NO.5

農産物のブランド化や特産品の開発と併せて、インターチェンジに隣接した新たな物販施設の整備、物流の拠点づくりや既存観光拠点での販売促進等による商業の活性化を目指し、それらに必要となるアクセス道路の改善や案内標識の充実などに取り組む必要があると考えます。



3-3-4 観光

基本方針：にぎわい創出玄関口づくり

北杜市は、八ヶ岳をはじめとする山岳景観や自然環境資源を活用した温泉施設、湧水などの観光資源を豊富に有し、『リトリートの杜宣言』を通じた行い、癒しの空間を活用した宿泊型・滞在型の観光地を目指していますが、観光地が市内に広く分散しているため、移動に時間を要したり、宿泊の動機付けが不足したりしていることなどから、来訪者の増加に陰りがあると捉えています。

NO.44

一方で、北杜市では、八ヶ岳を中心とした長野県諏訪郡富士見町及び原村と八ヶ岳観光圏を形成し、観光旅客の来訪及び滞在の促進を総合的かつ一体的に図っているところです。

NO.4

中部横断自動車道を契機としたまちづくり、みちづくりにあたっては、市民の『もてなし』の気持ちを背景に、癒しの空間を創出する八ヶ岳の自然環境・景観や温泉施設等の既存の観光資源に加え、体験型農業などの市民と来訪者が交流する賑わい空間の創出や、観光と農業の融合、県外を含む広域観光拠点を回遊するなどの周遊・滞在型観光を促進することを目指すことが必要と考えます。

NO.44

NO.55

これらの周遊・滞在型観光の促進にあたっては、民間企業や一般市民との協働による観光振興の取組も重要と考えます。

NO.91

NO.104

このため、観光に関しては、以下のような視点での取組が必要と考えます。

視点①：観光拠点へのアクセス

観光は、農業と並ぶ北杜市の基幹産業の一つであり、観光客を市内に点在する各観光拠点に誘客するため、まちの玄関口であるインターチェンジとのアクセス性に配慮することが必要と考えます。

長野、新潟、静岡はもとより、首都圏、北関東、中京圏まで視野に入れ、季節を問わず老若男女、多様な観光客をより多く呼び込むことが北杜市の観光振興に繋がることから、インターチェンジと各観光拠点へのアクセス性の向上や、既存の公共交通網の活用などに関係機関が一体となって取り組み、移動性向上やリピーター客の増加を目指す必要があると考えます。

NO.86



視点②：豊かな景色を満喫できる場の工夫

北杜 24 景に代表される北杜市の優れた山岳景観は、観光振興の大きなセールスポイントとなることから、これらの景観を観光資源として積極的に活用し四季を通じて豊かな景色を眺望できる休憩施設の確保などの工夫に取り組む必要があると考えます。



視点③：周遊・滞在（型）観光を促進する情報発信の工夫

長野、新潟、静岡はもとより、首都圏、北関東、中京圏まで視野に入れた観光客が、北杜市を滞在拠点として広範囲を周遊するため、スムーズな移動が可能となるよう、北杜市を中心とした周遊観光に向けた工夫や道路休憩施設内に観光案内所を設けるなど情報発信などに取り組む必要があると考えます。

また、体験型農業をはじめとする農業と観光の融合による北杜市独自の観光スタイルを促進するための工夫に取り組む必要があると考えます。



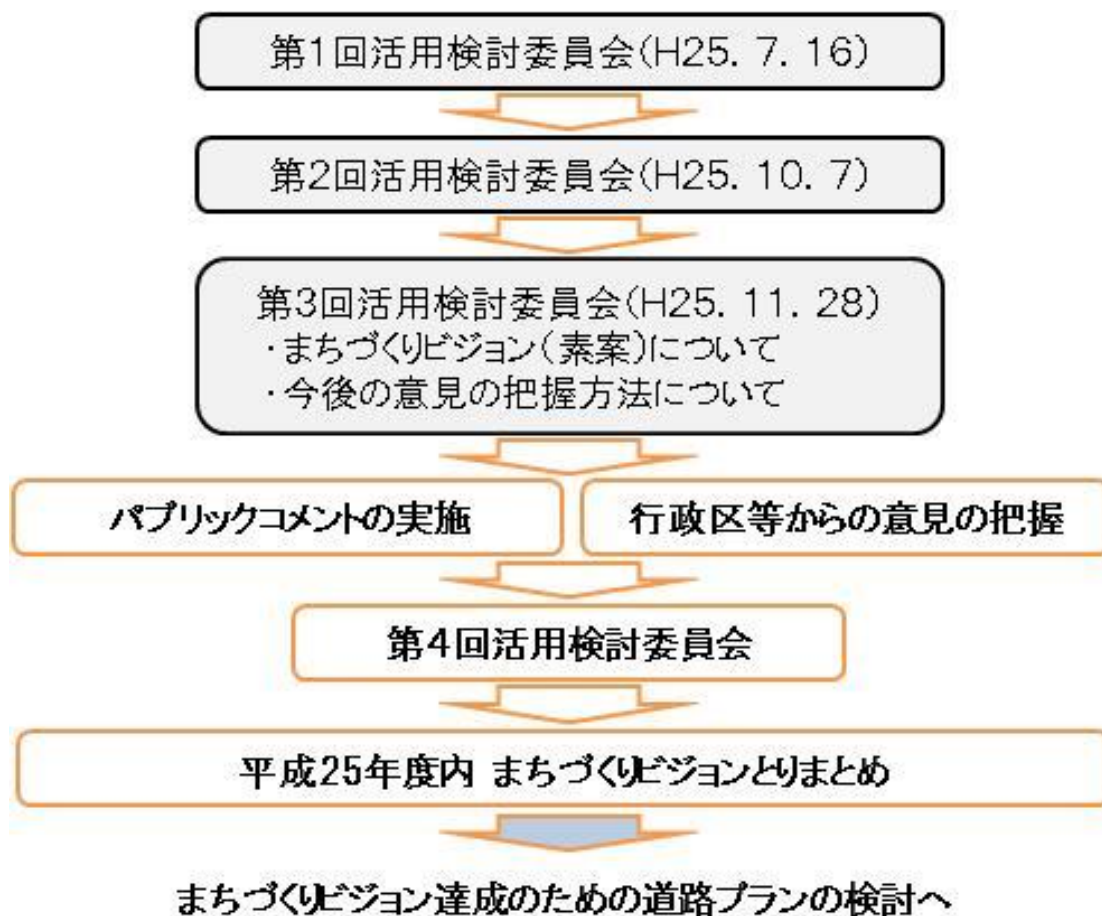
3-4 まちづくりビジョン達成に向けた進め方

北杜市まちづくりビジョン（以下、「まちづくりビジョン」）は、既定計画である「北杜市まちづくり計画」を踏まえ、中部横断自動車道の整備を見据え、沿線地域の将来像を明らかにし、北杜市の恵まれた地域特性を踏まえながら、地域の活性化に結びつける取組や方策等を、地域住民自らが主体的かつ計画的に推進するための指針となるものです。

まちづくりビジョンをもとに、中部横断自動車道の整備を見据え、ビジョン達成のための中部横断自動車道を活かしたまちづくり・みちづくりなどに、地域住民をはじめとする関係者が一体となり協働で取り組むことが、地域の活性化に大きく寄与すると考えます。

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会がその中心的役割を担い、ビジョン策定後も継続的に地域住民の意見を聞きながら、ビジョン達成に向けた取組を行っていくことが必要と考えます。

■ 当面の進め方について



4. まちづくりビジョンを達成するための道路プランにむけて

「まちづくりビジョン」を踏まえ、今後は、まちづくりビジョンを達成するための道路プランの策定を行っていきます。

道路プランでは、市民の皆さまのご意見を聞きながら、まちづくりに役立つ中部横断自動車道となるよう具体的な配慮事項や行政と地域とが協働して取り組む事項などについて取りまとめていく予定です。

■ 今後検討する道路プランの内容（案）について

分野	基本方針	視点	道路プランを検討する項目の例
環境・ 景観	多様な自然・環境・ 景観とともに	豊かな自然環境との調和と共生	<ul style="list-style-type: none"> ・インターチェンジの配置 ・道の駅、産業施設や観光施設等への効果的な誘導 ・道路標識や照明灯、防護柵などへの配慮 ・快適な走行性、安全性に配慮した道の構造 ・重要な眺めの場所の抽出とそこからの眺望景観の保全
		優れた山岳景観と農村景観の保全	
		良好な生活環境への配慮	
		貴重な動植物との共存	
くらし	安全・安心で快適な くらしのために	安全・安心の確保に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な自然的空間・歴史的空間の保全 ・高速バス等の停留所などの検討 ・動物移動経路の確保（アニマルパスウェイ） ・猛禽類の生息域の確保
		くらしやすさの向上	
地域 活性化	魅力あふれる元気 なまちを目指して	六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重植物の移植 ・周辺環境と調和した道路 ・湧水や地下水に配慮した道の構造 ・周辺景観や植生との調和 ・騒音、振動、光害の対策
		商工業の活性化	
観 光	にぎわい創出 玄関口づくり	観光地拠点へのアクセス	
		豊かな景色を満喫できる場の工夫	
		周遊・滞在（型）観光を促進するための情報発信の工夫	